八戸	工業高等	専門学	校	開講年度	平成31年度 (2	.019年度)	授	業科目	勿理化学	II B(3119)
科目基礎											
科目番号		4C31				科目区分		専門 / 必修			
受業形態						単位の種別と単位	边数	履修単位: 1			
開設学科				ユ工学科マテリアル・バイオ工学コ		対象学年	4				
開設期前期						週時間数	2				
				上亨・秋貞英	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			書出版社			
旦当教員		齊藤	貴之								
到達目標	<u> </u>	•									
電解質溶液	夜・電気化学	学・化学ル解し、式(反応速度 の誘導や	・原子核構造 式を使った計	における基礎を理解し 算ができる。	し、説明できる。					
レーブリ	Jック										
頭(無項□1				理想的な到達レベルの目安 各分野の基礎を理解し、詳しく説 明できる。		標準的な到達レベルの目安 各分野の基礎を理解し、簡単に説 明できる。		未到達レベルの目安 各分野の基礎を理解し、説明でき			
評価項目2				トイン おりまる かっぱん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいまん かいま	式を理解し、式の誘 に様々な計算ができ	各分野の基礎式を理解し、式の誘導や式を使った簡単な計算ができ j		各分野の	ない。 各分野の基礎式を理解し、式の誘 導や式を使った計算ができない。		
――――	小李口 抽式	五口 トク		る。					L		
	別達目標項			n /4/5							
	9到達度目標 • • • •	祟 DP3 専	#門知識 <i>(</i>	り 修得							
教育方法	去等										
概要		物理化学 II Bでは、これまで学習してきた化学熱力学の基礎をもとに、電解質溶液・電気化学について学ぶ。また、化学熱力学と共に、化学反応を考える上で必須となる化学反応速度について学習する。さらに、原子核構造についても学習する。それぞれの基礎的概念を理解するとともに各種物理化学量を計算し評価できる能力を身につける。									
授業の進め	め方・方法	を学えて学える。	ぶ。また。 ぶ。原子 ^が 課題の き試験80	、化学反応速 核構造につい 取り組みで理 1%・小テスト	て学び、次に化学電流度について、様々なが 度について、様々なが ては、放射線の種類が 解を深め、応用力を い・課題など20%とし 度を伝達する。	支応の反応速度式で などについて学ぶ。 身につける。	を導出し、授業で	ノ、反応速度 では基礎理論	を定数の計算の学習を ではいる	算法や温度依 中心に進める	存性につい 。授業中の
注意点		数学。 法則	と物理の よど質点(基礎的知識が の力学などを	欠かせないので、関数 必要に応じて復習する	数の微分、積分等の ることが望ましい。	の数学的 関数電	り手法、物理 電卓を常時用	理量の単位、 引意するこ	. エネルギー: と。	量、運動の
授業計画	画										
		週	授業	 内容			週ごと	の到達目標			
		1週	電解	 !質溶液							
		2週	電解	 !質溶液							
		3週	電気	化学、化学電	 l池						
		4週		化学、化学電							
	1stQ	5週		nstの式、起電							
		6週		nstの式、起電							
		7週		定数、自由工							
		8週		· 反応速度 1							
前期		9週		<u> </u>							
		10週			: <u>E:///////////////////////////////////</u>	sの式.					
		11週			<u>授依存性</u> 、Arrheniu						
		12週		状態近似、斛							
	2ndQ	13週		状態近似、 状態近似、解							
		14週		核構造と放射							
		15週		度試験	·						
		16週	答案								
ーーー モデル・	· フアカリゴ		1	内容と到達		l					
<u> </u>	_, ,, ,, ,, _	分野		学習内容	エロ1家 学習内容の到達目標	<u> </u>				到達レベル	授業週
2755		100	-			放射線の種類と性質を説明できる。				到達レバル	10.AC
					放射性元素の半減期と安定性を説明できる。			4			
					年代測定の例として、C14による時代考証ができる。			4			
專門的能力					核分裂と核融合のエネルギー利用を説明できる。			4			
					校ガ袋と核離点のエイルナー利用を説明できる。 反応速度の定義を理解して、実験的決定方法を説明できる。			4			
	カ 分野別の 門工学	D専 化等系统	学・生物 分野		反応速度の定義を理解して、美験的決定方法を説明できる。 反応速度定数、反応次数の概念を理解して、計算により求めることができる。			4			
					微分式と積分式が相互に変換できて半減期が求められる。				4		
					連続反応、可逆反応、併発反応等を理解している。				4		
					律速段階近似、定常	常状態近似等を理解し、応用できる。			4		
					電池反応と電気分角	曜を理解し、実用係	列を説明	<u></u> できる。		4	
						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
平価割合	 }			•			,,,,,,				
平価割合	<u> </u>	l	ĒT.			課題・小テスト			合計		

基礎的能力	40	10	50
専門的能力	40	10	50